

2024年12月

「The Jamais Vu of Stewardship in Japan」

第9期 客員研究員

所属役職 東北大学法学研究科 准教授

(執筆当時：滋賀大学経済学部 講師)

氏名 頼奕成

要約

(「ジャメ・ヴー (Jamais Vu)」とは、心理学用語で「見たことがない」という意味のフランス語の借用語であり、ある状況を認識しているにもかかわらず、それが新しく、未知のものであるように感じられる現象である。)

2024年は、日本にとって極めて重要な年となるだろう。なぜなら、日本版スチュワードシップ・コード導入から10周年の節目に当たり、この10年間の日本における企業統治改革の成果を再評価する好機となるからである。2024年3月には日経平均株価が30年ぶりの高値を記録し、日本経済の失われた30年からの回復に向けた取り組みは、少しずつ「シーシュポスの岩」ではなくなりつつある。

2014年には、日本はアジアで最初に英国のスチュワードシップ・コードを導入した国となった。これは、大陸法体系の国がこのような行動を取るという点で非常に印象的であるが、企業統治改革は、果たしてその内部のDNAの影響を完全に排除できるのだろうか？

実際に、2014年のスチュワードシップ・コードの導入は、単なる偶然ではなく、1990年代後半からの一連の企業統治改革に関する政策に強く後押しされてきた。本稿は、規制の移植における経路依存に関する明確な事例をさらに一つ追加するものである。

以上

(掲載誌：Yichen Lai, *The Jamais Vu of Stewardship in Japan*, REVUE INTERNATIONALE DES SERVICES FINANCIERS / INTERNATIONAL JOURNAL FOR FINANCIAL SERVICES 2024/2 54-60 (2024).

Available at: <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.4900991>)

- (注) 1 この内容の全部又は一部について、日本証券業協会に無断で使用（転用・複製等）及び改変を行うことはできません。
- 2 この論文に述べられている見解は筆者個人のものであり、日本証券業協会としての見解を示すものではありません。